

4) 成人市中肺炎の重症度別患者数等

2015年度<2015年4月1日～2016年3月31日退院患者>

重症度	症例数	平均在院日数	平均年齢
軽症	13	8.31	51.00
中等症	48	19.60	77.95
重症	33	27.42	86.36
超重症	-	-	-
不明	-	-	-

<集計方法と定義>

- ◆対象患者は一般病棟に1回以上入院した、医科レセプトのみの患者です。
- ◆入院後24時間以内に死亡した患者さんは対象外です。
- ◆症例数が10未満の数値の場合は、-（ハイフン）で表示しています。
- ◆入院契機病名および最も医療資源を投入した傷病名に対するICD10コードが J13～J18で始まるものに限定しています。
- ◆重症度分類は、A-DROPスコアを用いています。

使用する指標【A-DROP 重症度分類】	
Age(年齢)	1.男性70歳以上, 女性75歳以上
Dehydration(脱水)	2.BUN 21mg/dLまたは脱水あり
Respiration(呼吸)	3.SpO ₂ 90%以下(PaO ₂ 60Torr以下)
Orientation(意識障害)	4.意識障害あり
Pressure(収縮期血圧)	5.血圧(収縮期)90mmHg以下

※5点満点で、1項目該当すれば1点、2項目該当すれば2点。

重症度分類
軽症: 上記5つの何れも満たさないもの
中等症: 上記項目の1つまたは2つを有するもの
重症: 上記項目の3つを有するもの
超重症: 上記項目の4つまたは5つを有するもの

※ただしショックがあれば1項目のみでも超重症とする

<解説>

成人の市中肺炎※につき、重症度別に患者数、平均在院日数、平均年齢を示しました。日本人の死因上位にある肺炎ですが、当院でも肺炎で入院される方が多くいます。成人市中肺炎の重症度の中で最も多い症例は「中等症」の48人でしたが、高齢になるほど、重症度が高くなり、平均在院日数も長くなる傾向があります。これもまた理学療法 of 積極的な介入が必要となっています。

※市中肺炎とは: 病院外で日常生活をしていた人に発症する肺胞(はいほう: 空気がたまる場所)の急性炎症です。